

平成 20 年 4 月 6 日

## **2008 年度日本 J/24 クラス協会理事会**

日 時：平成 20 年 4 月 6 日（日） 10:30～17:00

場 所：兵庫県三ノ宮市 三ノ宮研修センター会議室

出席者：関東（畠山、町田、平出）、東海（早川、横田）、関西（坂本、中野）、九州（高野、宮崎）以上 9 名（以上以下敬称略）

### 1. 理事の交代

越智理事が辞任されるのにあたり、推薦のあった中野氏が後任に就くことが承認されました。

### 2. 全日本選手権に関して

#### ◇ 2008 年度全日本選手権（九州）

- ・開催地は第一候補がマリノア、第二候補が小戸  
（コストの面が折り合えばマリノアでの開催を希望している。）
- ・日程は 11/20(木)から 11/24(月)
- ・全日本選手権のレガッタ計測の方法の決定は開催レース委員会の決定に委ねられる。
- ・協会の意向としては、2007 年度の全日本選手権でフル計測をクリアしている艇については簡易計測とすることを提案する。

※レガッタ期間中の時間的な負担を軽減することを目的に、近隣メンバー艇などについては大会日程に連続していない期日で事前に重量計測・キール計測等を済ませることも検討する。

#### ◇ 2009 年度、2010 年度の開催担当水域の決定

- ・2009 年度は関西水域、2010 年度は東海水域で開催する。

#### ◇ 2010 年度以降の開催水域

- ・2 年前の春の理事会で決定し、全日本選手権時の総会にて告知する。
- ・基本的には 九州 → 関西 → 東海 → 関東 の順で、持ち回りで開催する。
- ・持ち回り順ではない他の水域や、順序の入れ替えなどで開催エリアの候補がある場合には、別途理事会に諮るものとする。

### 3. 世界選手権出場資格について

#### ◇ 2008 年度出場チーム

- ・出場チームはリップル（関東）、だぼはぜ Jr.（関東）の 2 チームが決定している。
- ・出場の意思を表明していた 3 チームから出場辞退の意向が伝えられており、今回は出場枠を繰り下げ、参加を希望するチームを探す。

#### ◇選考基準の明確化

協会としてクオリファイを与える選考基準を明確化し、後日公示する。

#### ◇IJCA規約の改正

- ・世界選手権出場枠に関するIJCAの規約が改正されました（※）。
- ・出場枠の増加に伴い、各フリートおよびフリート間の交流の活性化を目的として、関東選手権（秋大会）に1枠のクオリファイ枠を設ける。
- ・今後の全日本選手権以外のレガッタにおけるクオリファイ枠については全日本選手権開催水域と相談の上、レガッタの規模・体制等を勘案して、理事会にて決定する。

※ IJCA WEB サイトより ORGANISATION ⇒ Rule ⇒ RegattaReguration を参照。

日本の出場枠は5枠から6枠に増えました。

#### 4. 須磨 YH への表敬訪問

畠山会長より表敬訪問の提案がありましたが、今回は見送られました。

現在6チームが活動しており、今後は積極的な交流を図っていく。

#### 5. 会計報告

- ・町田理事より2007年度（1月～12月）の会計報告がありました。
- ・現在監事が不在のため、野上氏（関東）・岩出氏（関西）に監査を依頼する。
- ・会員登録料の振込先は三菱東京UFJ銀行に新たに設けた口座に変更する。

#### 6. 事業計画・予算立案

2008年度JSAF提出資料を作成します。

#### 7. JSAF 評議委員会報告

出席した畠山会長より報告がありました。

#### 8. 旅費規定・役員任期の確認

- ・現行の旅費規程は数年前のものであり現状に合わなくなっているため、旅費規定の見直しを行った。
- ・前役員（任期：2006年4月～2008年3月）は全員留任し、任期は2年間とする。

#### 9. 協会規約の一部改定

- ・会費の見直しを行った。準会員について新たに学生会員会費（3000円）を設定する。
- ・協会規約の改定に伴う会員申込用紙のフォーマット・振込先の変更・簡素化。

#### 10. 協会過去資料の保管について

日産マリーンが事務局を担当していた当時の過去資料が段ボール箱で7箱ほどあり、資料の保管について検討を行った。紙ベースでの保管にはコスト面で負担が大きく劣化の恐れもあるため、デジタルデータ化して保管することとなった。仰秀（関東）チームの協力を得て、平出理事が担当となり作業を進める。

#### 11. 計測について

- ・ 次回計測委員会は全日本選手権開催前の10月末または、11月初旬に開催する
- ・ 予めから懸案であった計測証明書（パートA, B, C, およびD）のパーマネント化を早い時期、出来れば本年全日本選手権からの発行を行う。

#### その他

##### ◇ ワールドの招致について

- ・ 開催地の立候補があれば、協会としてはバックアップする意向を確認。

以上

作成者：平出篤志